

しが国際協力親善大使レポート

はらだ さき
原田 咲さん

隊次：2015年度3次隊

職種：コミュニティ開発

派遣国：グアテマラ

プロフィール

大津市出身、大学卒業後3年間金融系にて働きその後、青年海外協力隊に合格し派遣。以前から海外に興味はあったが大学卒業後はとりあえず日本で社会人経験を積もうと考え就職し、その後改めて海外で働いてみたいという気持ちになり応募し現在に至ります。

グアテマラという国

私が住んでいるエスキプーラスという街はエルサルバドルとホンジュラスの国境沿いです。街には黒いキリスト像がある教会があり、その教会がとても有名で教会のお祭りの日や週末は中南米から多くの観光客で賑わっています。グアテマラは一年中夏のイメージを持っている人が多いですが、私の街では冬は日本のように寒く、夏は日本のように暑いです。



私の任地のエスキプーラス市です。
奥の教会が黒いキリスト像がある有名な教会で

食事は主食とされているのは中南米で有名なフリフォーレスという黒豆を煮たものと、トウモロコシ系統のマイスという野菜を煮て潰し形を丸めて食べるものです。そしてそのマイスで作られたトルティーヤです。トルティーヤにフリフォーレス、チーズをつけて食べるのが主流です。米もありますが、基本的に米よりもパンを食べています。



トルティーヤという食べ物です。
民族衣装は写真のようにカラフルな刺繍で作られています。

そしてグアテマラ人の特徴は肌の色は少し茶色で、髪の毛は黒色です。そしてグアテマラは西側と東側で格差があると感じます。基本的に東の地域は裕福であり発展しています。グアテマラには車検制度がなく、車を購入してから使えるまで使うという考え方なので、日本では考えられない古いガタガタの車が走っていて少し危険です。ほとんどの車は日本車であり、現地の人も日本製は良いものばかりだからと気に入ってくれている人が多いです。

活動内容

私の職種はコミュニティ開発であり、その中でもお土産品の宣伝、観光開発、そして孤児院で英語を教えています。活動は私の任地の観光開発とお土産品などの私の任地で作られている商品の“一村一品”の宣伝です。

“一村一品”は大分県発祥であり、地域で特産品をつくりその地域を活性化する活動です。私の任地でこの活動が始まったのは三年前ですが、私が来た一年前、職人さんは一村一品の意味もわからず参加している状況でした。そこでまず私はどのような商品が売られていてどのように職人さんが働いているのか、何を必要としているかなどの職人さんの考えと、現地の状況を把握する事に努めました。そしてそこからは現状の形だけでは売れないので、現状の良さは残しつつ、新たな販売方法や商品の形を考えています。そして定期的に行う展示会などに出店しています。しかし私の任地グアテマラの文化や考え方は、新しい

ことに興味はなく、その日食べられたら良いというその日暮らしの考え方なので、新しいアイデアを考えてもなかなか新しい商品づくりに進みません。展示会などで新しいアイデア商品が完売しても、その展示会のためだけに作っただけでありその新しいアイデアの商品を作り続けようとはしません。グアテマラの文化を無理に変えて嫌々仕事するのは、継続的な活動にならないのでどうしようかと悩んでいます。私はいつも活動するにあたって、継続的な活動になることを考えています。2年後私がいなくなっても続く活動でなければ、ボランティアの意味がないと思うからです。残り1年何ができるか分かりませんが、私ができることを少しずつしていき私がいなくなっても任地の活動が続くような活動をしていきます。



この一年間で職人さんたちと考えた新しいアイデアの商品の写真です。私の任地の特産品です。

トキーヤという商品で、藍の植物からできている飾り物で、この写真の手前の細長い形でしか販売されておらず、これ以外の形では販売されていませんでした。そこで職人さんと一緒に考えて、ヘアゴム、ヘアピン、キーホルダー、などを考えました。先日、展示会に参加して販売したところ全て完売しました。このように職人さんと新しいアイデアを考えながら販売するという活動をしています。その他にもキリスト像や砂糖菓子、ロウソク、石鹸、髪留めなどを作っています。

そして孤児院で英語を教える活動もしています。10歳から18歳の子どもに英語に触れてもらおうとしています。英語に触れてもらうことで子どもたちの将来の選択肢が少しでも広がればと考えています。



一緒に活動している職人さんです

私の任地での一村一品活動を facebook と Instagram で “Esquipulas comite de OVOP” の名前で発信しています。もしよければ見てイイネ！お願いします。